

## 全日本民医連リハビリ支援ニュース 2011年5月6日

発行：全日本民医連リハビリ技術者委員会

● 避難所では医師や看護師による回診のほか、診察や足浴、薬剤師による服薬指導や臨床心理士などの心のケアチーム回診などが全国から来た民医連支援スタッフによって行われています。

多賀城体育館で避難されているAさんは、既往の大腿骨頸部骨折で下肢筋が低下して歩行が不安定とのことでしたが、実際にお話しているなかで「実は腰がとっても痛いよ」と話されました。よくよく聞いてみると津波で流されたときに水から這い上がろうとして腰を回転させひねったとの事です。今までその事を誰にも話していなかったとAさん。何で話さなかったの？との問いに「みんな辛い大変な思いをしているから、自分だけ言い出せなかった」とのこと。下肢よりも腰の症状が重く腰部のリハをおこなうと、歩きやすくなったと笑顔を見せてくれました。(5月3日)

● あるNSの報告で介護が必要な人がシャワーも1ヶ月以上入れずに衛生が保てていないとの報告がありました。避難所ではシャワーが着替えを含めて一人10分で、4日に一度のみと決まっています。そのため身体に障害があり更衣に時間のかかる人は一ヶ月以上もはいていません。また介護者が更衣室の問題から同性ではなくてはならず、夫の介護を妻がおこなえません。車で5分くらいのところにある自衛隊の作ったふろに入らせて上げられないか？という提案が出されました。

しかし、どういった状況かわからないため、翌日PTと30分前に到着したばかりの山形チーム(介護士・看護師・事務)を巻き込んで、フロアの現場視察へ。自衛隊と直接交渉をしてシャワーチェアと脱衣所用のイスを(男女それぞれ)置かせてもらうこと、介護が必要な人が同性の介助者とともに入浴をすることにOKをだしてくれました。GWの連休中にもかかわらず、坂総合のリハ室よりシャワーチェアを2つと脱衣所のイスを2つ貸していただきました。

何人かの障害を持つ方はデイサービスなどを利用していることから、デイにいけない人たちをピックアップ。リハ実施しながら本人に声かけしてみました。しかし「オムツがはずかしい、自信がない、行くのが億劫」とのことです。しかし山形チームの一人は男性介護士だったので「このお兄ちゃんに仕事させないでこのまま山形に返すのはかわいそうやろ？」という少しづつ心に受入がみられ、杖歩行の妻とバギー歩行の夫婦二人で入浴へ行くことになりました。さらに医師が車をもう一台出してもらえるということになり、急遽ピックアップ歩行の女性も入浴へ誘うことができました。

Ns・介護士・PTを含め5人のスタッフで3人の要介護者の入浴介助を行い、3人とも本当に素敵な笑顔を見せてくれました。あちこち痛みの訴えがでていたバギー歩行の男性も痛みを忘れたかのように軽い足取りをみせ「また来たいな。行くまでは心配だったけど、行くって決めたら着替えて待ってたんだ。ここに連れて本当にうれしい」とお話をされました。

看護師から意見がでてから入浴実施まで約2日。みんなの協力で一歩前へ前進できました。長期的な対応はまだですが、今出来ることを突破口に支援が広がり、QOL向上へとつながればいいと思います。

まだまだセラピストが不足しています！！

全国からのバックアップ待っています。

(東葛病院；PT 村松)